

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
物理学	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	物理的現象の基礎理論を医療・看護と結び付けて学び、看護場面に活用する能力を養う。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	力学と身体	物理学の導入、看護と力学、静力学、人体と力、身体バランス		講義	
2	人の運動	動力学、運動学、動作解析、運動と生活活動		講義	
3	熱とエネルギー代謝	体温、人体と熱		講義	
4	圧力と循環・呼吸	循環器系の解剖生理、医療機関		講義	
5	音と光	耳と聴覚、発声、眼の解剖生理、視覚認知		講義	
6	電磁気と波	神経、波の性質と超音波		講義	
7	画像診断と放射線	画像化、放射線と人体への影響		講義	
8	試験	筆記試験，テキスト，講義資料持込可			
評価 方法	出席状況、筆記試験				
参考 文献 資料	木下順二：医療系のための物理学入門（講談社）				
備考	教科書にそって講義しますので、教科書は必ず手元に置いてください。 物理学は文書を読んだだけではわかりにくい場合もあるので、メモやアンダーラインなど書き込みながら受講すると効率的です。				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
論理的思考と表現法	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	日本語のコミュニケーション能力を高めることは、社会人として重要である。この授業では基礎的な知識を確認し、論理力と表現力の向上を目標に、話したり、書いたりする。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	論文の書き方			講義	
2	原稿用紙の書き方			講義	
3	引用文・原稿用紙の書き方			講義	
4	引用文作成			講義	
5	要約文			講義	
6	グラフの利用			講義	
7	3段構成の文			講義	
8	試験				
評価 方法	授業中に提出した課題（75%）、テスト（25%）で評価する。				
参考 文献 資料	江原勝幸『看護学生のためのレポート書き方教室』照林社				
備考	授業は人前で話したり、文章を書いたりする活動が中心となる。慣れることで苦手意識を少しでも克服してほしい。				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
情報科学 I (情報リテラシー)	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	情報通信技術 (I C T) を安心、安全に活用するための基礎的能力を身につける。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	データサイエンスとは				講義
2	情報とデータ、データサイエンス				講義
3	Wordの基本				講義
4	Excelの基本				講義
5	PowerPointの基本				講義
6	ICTを使う能力				講義
7	既存情報の取得方法				講義
8	試験				
評価 方法	テスト 100点				
参考 文献 資料	「統計学がわかる」				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
情報科学Ⅱ	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	医療のIT化や情報システムに適応できる情報処理の知識と技術を学ぶ。 具体的には、情報の種類と取り扱いに関する注意、統計の基礎に関する知識の習得を目指し、コンピュータを使用し、統計の知識を用いたデータ処理、整理したデータをまとめて分析することを通じて技術の習得を目指す。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	看護と統計：科学的思考と統計を学ぶ意味 (ナイチンゲール、センメルヴェイスを例に)			講義・演習	
2	代表値：平均とばらつき			講義・演習	
3	母集団と標本：標本を用いた母集団の推測			講義・演習	
4	区間推定：信頼区間、t分布			講義・演習	
5	仮説検定の考え方：帰無仮説と有意水準			講義・演習	
6	仮説検定：カイニ乗検定			講義・演習	
7	仮説検定：t検定、正規分布を前提とした検定			講義・演習	
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価 方法	筆記テスト100点				
参考 文献 資料	「統計学がわかる」				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
社会学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	社会構造、社会現象、社会的行為について学び、人々の生活と社会との関連を理解する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	社会学とは何か 学問的背景 集団について (所属・準拠)			講義	
2	外集団 内集団 マイノリティとマジョリティ			講義	
3	ライフサイクル ライフコース			講義	
4	ラベリング理論 集団的記憶			講義	
5	家族とは 核家族普通説			講義	
6	自己の知識との関連			講義	
7	自己の体験との関連			講義	
8	「マイノリティをみつけよう」			グループワーク	
9	発表、ジェンダーフリーフェミニズム①			グループワーク	
10	発表、ジェンダーフリーフェミニズム②			グループワーク	
11	ハビトゥス論			講義	
12	社会調査 (量・質)			講義	
13	購読			講義	
14	購読、ふりかえり			講義	
15	試験				
評価 方法	筆記試験				
参考 文献 資料	マイノリティ問題から考える社会学・入門 (有斐閣)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
心理学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	こころの発達や働きを学び、自己と他者を理解し行動するための基礎的能力を養う。				
回数	学 習 内 容	学習方法			
1	心理学とは (定義・目的・歴史・分野)	講義			
2	性格と知能の心理 (性格理論・知的機能)	講義			
3	社会・集団の心理 (社会的認知・社会的スキル・隣国の心理)	講義			
4	感情・情緒の心理 (感情・情緒とは 感情の発達・種類 感情はなぜ生じるのか)	講義			
5	動機と欲求の心理 (定義・種類 内発的動機づけ 外発的動機づけ マスロー段階欲求説)	講義			
6	自己理解 (自己意識・自己概念)	講義			
7	交流分析 (自己理解・他者理解かかわり方 伝え方・エゴグラム交流パターン ゲーム分析)	講義			
8	感覚・知覚の心理 (感覚の種類と性質 感覚の加齢変化 知覚の諸現象 形と運動の知覚)	講義			
9	学習・記憶の心理 (学習とは 三項随伴性 条件づけ 記憶の種類)	講義			
10	発達の心理 乳幼児期・児童期 (発達段階理論 対人関係 心理的問題)	講義			
11	発達の心理 青年期・成人期・老年期 (発達理論をふまえた特徴 心理的問題)	講義			
12	ストレス (ストレスに関する理論 対処法 適応障害 精神疾患)	講義			
13	面接の技法 (マイクロカウンセリング技法 コーチングモデル イーガンのコミュニケーション技術)	講義			
14	カウンセリングと心理療法 (来談者中心療法 交流分析 認知行動療法)	講義			
15	試験				
評価 方法	筆記試験 (100点)				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
文化人類学	非常勤講師	1	30	15	試験 1 回

学習 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方・考え方「文化」から人間を考える ・自文化と異文化との違い・共通点から「文化」を検討→人間を理解（最終目標） 				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	文化とは			講義	
2	異文化とは何か			講義	
3	異文化を理解する			講義	
4	文化人類学とは			講義	
5	文化人類学の理論			講義	
6	文化人類学から「生きる」ことを考える 人の一生			講義	
7	文化人類学から「生きる」ことを考える 老いと死			講義	
8	文化人類学から「つながる」ことを考える 親族			講義	
9	文化人類学から「つながる」ことを考える 婚姻			講義	
10	文化人類学から「価値観」ことを考える 象徴			講義	
11	文化人類学から「価値観」ことを考える 信仰			講義	
12	文化人類学から「他者」ことを考える 民族			講義	
13	文化人類学から「他者」ことを考える マイノリティ			講義	
14	文化人類学から「他者」ことを考える フィールド			講義	
15	試験				
評価 方法					
参考 文献 資料	「NHK 高校講座 地理」 <ul style="list-style-type: none"> ・6-9回 気候の違いと生活文化について（衣・食・住） ・24回 食文化、宗教、ことばの多様性について ・25回 国家や民族について 				
備考	参考：人類学の隣接分野 <ul style="list-style-type: none"> ・文化人類学／社会人類学：自分の文化とは異なる文化（異文化）を研究 ・民俗学：主に自国内の文化を研究 ・自然人類学（形質人類学、生物人類学）：人間の進化や身体の特徴を研究 ・考古学：遺跡を発掘するなどして当時の生活を研究 				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
教育学	非常勤講師	1	30	15	試験 1 回

学習 目標	1. 教育による人間形成、成長・発達への影響、および教育の意義を理解する。 2. 看護における教育的役割実践のための基礎知識を理解する。 3. 専門職業人として必要な人との教育的関わり方や、生涯学習の意義について理解する。				
回数	学 習 内 容	学習方法			
1	オリエンテーション	講義			
2	教育とは？	講義			
3	教育をさまざまな視点から考える①	講義			
4	教育をさまざまな視点から考える②	講義			
5	学ぶこと・教えること①いい先生って？	講義			
6	学ぶこと・教えること②いい授業って？	講義			
7	学ぶこと・教えること③対象と出会う・発達の理解	講義			
8	学ぶこと・教えること④学習の原理	講義			
9	学ぶこと・教えること⑤指導の設計	講義			
10	健康と教育①健康教育とは／グループ分け	演習			
11	健康と教育②—健康講座づくり	演習			
12	健康と教育③—ミニ講座の実践①	演習			
13	健康と教育④—ミニ講座の実践②	演習			
14	看護と教育：看護と教育とは何であったか	講義・演習			
15	試験	レポートⅡ			
評価 方法	ジャーナル30%、ミニ健康講座30%、試験40%				
参考 文献 資料	「看護のための教育学」第2版（医学書院）				
備考	本講義は適宜演習などを取り入れるため、授業への積極的な参加が求められる。				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
人間行動学 I	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習目標	<p>対人関係における自分の特徴を探求する。 授業では毎回設定された学習素材（実習）に取り組むことにより、その時起こっていること（気持ちの変化、人との応答など）を明確にすることから、何故そのようになっているかを分析し、自己理解を深めていく。特に人間行動学 I では、自分の（中に起こる）気持ちの変化を基に自分の思考・言動・反応などがどのように起こっているかに気づく。カウンセリング論、人間行動学 II へと繋がっていく人間関係を学んでいくはじめの一歩として、まず今の自分自身への気づきを深めていくことを目標とする。</p>				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	オリエンテーション 小講義「体験から学ぶということ」			講義・演習	
2	実施「五感をつかって」体験・ふりかえり・ジャーナル			講義・演習	
3	今日の私のねらい 実習「私 Map」Mapづくり			講義・演習	
4	Mapをつかって自己紹介 Mapに手を加える 小講義「自己概念とは」			講義・演習	
5	今日の私のねらい 実習「出会いのころみ」ペアでの対話			講義・演習	
6	他己紹介をしあう わちあい 小講義「自己開示と人間関係」			講義・演習	
7	実習「対人コミュニケーション棚卸し」 小講義「効果的コミュニケーションの5つの要素」			講義・演習	
8	課題レポート作成				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は行いません。レポート課題（ワード作成・自筆不可）と平常点をあわせて評価します。 ・平常点は、出欠席・授業への取り組みの度合いを重視します。 				
参考文献資料	<ul style="list-style-type: none"> ・グループファシリテーターの会Seeds監修、杉山郁子編『「今ここ」を生きる人間関係』（ナカニシヤ出版） 				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)
人間行動学Ⅱ	非常勤講師	1	30	15 試験1回

学習目標	<p>看護は小集団（グループ）で行われるチーム活動の多い仕事です。チーム活動では、それぞれの役割を各々が遂行することによってはじめて課題が達成されます。そのため、看護職を目指すものとして、チーム活動の理解は必須です。この授業では、実際にチーム活動を行うことを通して、それぞれが自分の特徴に気づき、それを活かす行動を試みます。また、お互いに試みを支え合ったり、試みたりすることからより多くの学びが得られるように、フィードバックなどをしていきます。それらの体験を通して、一人ひとりがチームの中で自分らしさを発揮し、効果的なコミュニケーションを通してチームに働きかけ、生き生きとした活動が行えるようになることを目指します。</p>		
回数	学 習 内 容	学習方法	
1	オリエンテーション、グループ発表、実習「名画観賞」実習・発表	講義・演習	
2	実施「名画観賞」ふりかえり、小講義「ジェハリの窓」私のねらいづくり	講義・演習	
3	小講義「グループプロセス」、実習「タワービルディング」政策実施	講義・演習	
4	実習「タワービルディング」ふりかえり、小講義「PM理論」	講義・演習	
5	導入「先回のふりかえり今日のねらい」、実習「新説・桃太郎」グループ討議	講義・演習	
6	実習「新説・桃太郎」ふりかえり、小講義「価値観」	講義・演習	
7	小講義「意思決定」、実習「月で遭難したら」	講義・演習	
8	実習「月で遭難したら」ふりかえり、小講義「コンセンサスの意義」	講義・演習	
9	小講義「リーダーシップ・PM理論」、実習「ブロックモデル」	講義・演習	
10	小講義「シェアードリーダーシップ」、「ブロックモデル」ふりかえり、次回への目標	講義・演習	
11	実習「ナースをさがせ」グループの目標決め、実施 結果発表	講義・演習	
12	「ナースをさがせ」ふりかえりからグループの現状を捉え、次回への目標を決める	講義・演習	
13	実習「グループ表現」個人作業テーマ決め、グループ作業、発表	講義・演習	
14	ふりかえり用紙記入、グループでのわかちあい	講義・演習	
15	レポート課題提示、人間行動学Ⅱを通しての私の変化、今後の課題	講義・演習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は行いません。 ・レポート課題と出席状況、ジャーナルなどをあわせて総合評価します。 ・レポート課題は、最終授業の中で提示され、提出期限は一週間程度になります。 ・出席は、重視されます。 		
参考文献資料	<p>「今ここ」を生きる人間関係 グループファシリテーターの会Seeds (ナカニシヤ出版)</p>		
備考			

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
カウンセリング論	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験を通して、さまざまな人間関係のありようを学ぶ。 ・実態の対人関係の場面における自分自身のありようや他社とのかかわりに目を向け、気づいたことをもとに自分自身の学びを導きだす。 ・特に他者とのコミュニケーションに焦点をあて、人間関係でおこるさまざまなことに気づき、働きかける人間関係能力を高めていくことをめざす。 				
回 数	学 習 内 容	学 習 方 法			
1	オリエンテーション 小講義「コーチングのポイント」 演習「コーチングをやってみよう」	講義・実習			
2	実習「流れ星」 小講義「コミュニケーションのプロセス」	講義・実習			
3	実習「たずね・こたえ・観察する」実施・ふりかえり	講義・実習			
4	小講義「アサーションとは」 ワークシート、チェックリストわかちあう	講義・実習			
5	実習「アサーティブであるために」ねらいの見直し	講義・実習			
6	小講義「看護師にとって、なぜアサーションは必要か」 実習「たのむ・ことわる」	講義・実習			
7	実施Ⅰ 小講義「アサーティブな関りについて」 実施Ⅱ レポート課題提示	講義・実習			
8	まとめ レポート				
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は行いません。レポート課題と平常点をあわせて評価します。 ・レポート課題は最終授業で提示されます。 ・平常点は、出欠席、授業への取り組みの度合い、ジャーナルを重視します。 				
参 考 文 献 資 料	「『今ここ』を生きる人間関係」グループファシリテーターの会Seeds監修 杉山郁子編（ナカニシヤ出版）				
備 考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
生命倫理学	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	人間の尊厳、生命観・死生観を文化との関連から学び、現代医療の提起している問題について考え方を深める。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	ガイダンス 生命倫理学とはなにか				講義
2	功利主義と義務論				講義
3	代理出産				講義
4	移植医療				講義
5	人工妊娠中絶				講義
6	安楽死・尊厳死				講義
7	これからの医療				講義
8	試験				
評価 方法	筆記試験				
参考 文献 資料	生命倫理学入門 今井道夫著 (産業図書)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
健康と運動	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	健康生活における運動の意義と方法を学び、看護実践に活用できる能力を養う。				
回数	学 習 内 容	学習方法			
1	基本姿勢および呼吸について	講義・演習			
2	有酸素運動（エアロビックダンス）実践	講義・演習			
3	有酸素運動応用実践	講義・演習			
4	有酸素運動と無酸素運動について	講義・演習			
5	健康の定義 健康について	講義・演習			
6	インナーマッスルとアウターマッスルについて	講義・演習			
7	身体改善したい点についてのポイント	講義・演習			
8	レポート課題への取り組み	講義・演習			
評価 方法	課題評価 100%				
参 考 文 献 資 料					
備 考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
英 語 I	非 常 勤 講 師	1	15	7	試 験 1 回

学 習 目 標	看護医療分野における英語を学び、活用できる力を身につける。				
回 数	学 習 内 容				学 習 方 法
1	Unit1 会話をつなげる Unit2 相手を知る Unit3 生年月日・職業など				講義
2	Unit4 総合受付での会話 問診票 I				講義
3	Unit5 基礎編 位置を表す前置詞 院内案内をする				講義
4	Unit5 応用編 Unit6 基礎編 症状を尋ねる				講義
5	Unit6 応用編 様々な症状を表現する 問診票 II				講義
6	Unit7 補足Unit 痛みについて尋ねる 労働環境を尋ねる				講義
7	Listening Test Skit発表会				講義
8	筆記試験				
評 価 方 法	試験について 100点中：筆記80点、Listening15点、Skit5点				
参 考 文 献 資 料					
備 考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
英語Ⅱ	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習 目標	看護医療分野における英語を学び、活用できる力を身につける。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	Unit8	病歴	時の表現	Medical Term:Diseases	講義
2	Unit9	薬の服用	頻度の表現	Medical Term: Medicines	講義
3	Unit10	検査予約の取り方	検査に関する表現	Medical Term: Tests	講義
4	Unit11	手術に関する表現	オリエンテーションの会話		講義
5	Unit12	入院患者への質問	分数の読み方	SPEAKING, LISTNING, MATCHING	講義
6	Health care support (就業と疾病管理の両立支援のために)				講義
7	リスニングテスト 医療スタッフのための英会話テキスト寄り重要表現など				講義
8	筆記試験				
評価 方法	試験 (100点)				
参考 文献 資料					
備考	*各ユニットでリスニングとライティング、ロールプレイングを適宜行う。 *英語文法解説 (会話に必要な英文法など)				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
形態機能学	医師 (整形外科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	看護に必要な人体の形態と創造、正常な機能に関する知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	基礎知識・細胞と組織			講義	
2	皮膚と膜・血液			講義	
3	循環器系			講義	
4	脈管系			講義	
5	呼吸器系			講義	
6	消化器系			講義	
7	泌尿器系			講義	
8	内分泌系			講義	
9	生殖系 発生学			講義	
10	骨格系			講義	
11	筋系			講義	
12	神経系			講義	
13	感覚系			講義	
14	免疫系			講義	
15	試験				
評価 方法	筆記試験 100点				
参考 文献 資料	人体の構造と機能①解剖生理学 (ナーシンググラフィカ) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ (照林社) 自分でつくる!解剖生理ポイントノート (メジカルフレンド社)				
備考					

授業科目	担当講師	単位	時間	回数（試験）	
生活の中の形態機能	専任教員（実務経験有）	1	15	7回	試験1回

学習目的	人の日常生活の行動から身体を把握する視点を通して、人体の構造と機能についての理解を深め、看護の展開に活用できる基礎的知識を習得する。また、自分自身の生活や身体を通して多面的に理解できるようになる	
科目目標	日常生活行動の枠組み（動く、食べる、息をする、トイレに行く、話す・聞く、眠る）から人体の構造と機能を理解し看護実践に活用できる能力を養う	
回数	学 習 内 容	学習方法
1	何のための生活行動か	講義
2	動く	GW 講義
3	食べる	GW 講義
4	息をする	GW 講義
5	トイレに行く	GW 講義
6	話す・聞く	GW 講義
7	眠る	GW 講義
8	筆記試験	
評価方法	課題提出（30％） 筆記試験（70％）で評価する	
評価基準	<p><課題評価基準> 提出期限内に提出されたものに関して評価する 課題プリントおおよそ80%以上の記載で以下の評価 提出状況：①講義前提出1点 ②講義後提出1点 課題内容：①テキスト2冊以上の調べ学習で1点(参考・引用文献を示すこと) ②図・表の活用で1点 ③事後学習課題提出1点</p>	
参考文献資料	1 アナトミイカ 解剖学 人体の構造と機能① 2 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 3 日常生活行動からみるヘルスアセスメント	
備考	講義の前に課題提出があります。課題をもってGWを行います。	

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
生態栄養学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習目標	看護に必要な人体の形態と創造、正常な機能に関する知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	化学の基礎 生化学とは ATPについて			講義	
2	糖の構造			講義	
3	二糖類 多糖類			講義	
4	脂質の構造			講義	
5	中性脂肪 リン脂質 代謝の統合			講義	
6	核酸の構造 ゲノム アミノ酸			講義	
7	タンパク質 (分類、性質)			講義	
8	タンパク質の構造 構造の変異と病気			講義	
9	酸素			講義	
10	アルコールの代謝 アイソザイム			講義	
11	解糖系 クエン酸回路			講義	
12	電子伝達系 酸化的リン酸化 ペントースリン酸回路			講義	
13	脂質代謝 (リポタンパク質、胆汁色素) 脂肪酸の分解合成			講義	
14	プロスタグランジン 血糖値の調整 糖尿病の代謝			講義	
15	タンパク質・核酸の代謝 アミノ酸の機能			講義	
	試験				
評価方法	定期試験での評価を基本とするが、授業態度も参考にする。				
参考文献資料	臨床生化学 人体の構造と機能② (メディカ出版)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病理学総論	非常勤講師 (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習 目標	疾病の成り立ちと病態の特徴を理解する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	はじめに 死の三徴 老化			講義	
2	先天異常 細胞の障害と修復			講義	
3	腫瘍			講義	
4	免疫・炎症 感染			講義	
5	感染 循環			講義	
6	代謝			講義	
7	外傷 中毒 放射線			講義	
8	まとめ 試験				
評価 方法	筆記試験				
参考 文献 資料	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進①病態生理学 (メディカ出版)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学 I	医師 (呼吸器内科) (実務経験有) 医師 (呼吸器外科) (実務経験有) 医師 (整形外科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	呼吸器系・運動器系の機能と構造、および代表的な疾患の病態生理・治療、検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントするための基礎的知識を習得する				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	呼吸器の構造 生理	(呼吸器内科医師)		講義	
2	呼吸器の検査 治療	(呼吸器内科医師)		講義	
3	呼吸器の疾患	(呼吸器内科医師)		講義	
4	呼吸器の疾患 (肺循環・感染症)	(呼吸器内科医師)		講義	
5	呼吸器の疾患 (肺癌・喘息)	(呼吸器内科医師)		講義	
6	呼吸器外科疾患について①	(呼吸器外科医師)		講義	
7	呼吸器外科疾患について②	(呼吸器外科医師)		講義	
8	整形外科総論	(整形外科医師)		講義	
9	外傷について	(整形外科医師)		講義	
10	骨軟部腫瘍の基本	(整形外科医師)		講義	
11	上肢および下肢の疾患 末梢神経疾患	(整形外科医師)		講義	
12	運動器の症状	(整形外科医師)		講義	
13	骨関節炎症性疾患	(整形外科医師)		講義	
14	脊椎変性疾患	(整形外科医師)		講義	
15	脊髄損傷	(整形外科医師)		講義	
	試験				
評価 方法	筆記試験 100点				
参考 文献 資料	ナーシング グラフィカ EX1巻 呼吸器 ナーシング グラフィカ EX7巻 運動器				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学Ⅱ	医師 (循環器内科) (実務経験有) 非常勤講師 (血液内科医師) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習目標	①循環器系、血液・造血器の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	不整脈①	(循環器内科医師)		講義	
2	不整脈②	(循環器内科医師)		講義	
3	不整脈③	(循環器内科医師)		講義	
4	虚血性心疾患①	(循環器内科医師)		講義	
5	虚血性心疾患②	(循環器内科医師)		講義	
6	血管の器質異常	(循環器内科医師)		講義	
7	感染症①	(循環器内科医師)		講義	
8	感染症②	(循環器内科医師)		講義	
9	心不全①	(循環器内科医師)		講義	
10	心不全②	(循環器内科医師)		講義	
11	高血圧症	(循環器内科医師)		講義	
12	心臓弁膜症 心筋症	(循環器内科医師)		講義	
13	貧血 凝固異常	(血液・腫瘍内科医師)		講義	
14	白血病 リンパ腫	(血液・腫瘍内科医師)		講義	
15	勤労者に関連した疾患			講義	
	試験				
評価方法	筆記試験 100点				
参考文献資料	ナーシング	グラフィカ	E X 2巻	循環器	
	ナーシング	グラフィカ	E X 4巻	血液/アレルギー	
	ナーシング	グラフィカ	7巻	呼吸機能障害・循環機能障害	
	ナーシング	グラフィカ	9巻	造血機能障害・免疫機能障害	
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学Ⅲ	医師 (消化器内科) (実務経験有) 医師 (外科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	①消化器系に機能と構造および代表的な消化器疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続を脅かす疾患として「がん」について理解し、勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	食道・胃・十二指腸の疾患		(消化器内科医師)	講義	
2	腸・腹膜疾患①		(消化器内科医師)	講義	
3	腸・腹膜疾患②		(消化器内科医師)	講義	
4	肝臓①		(消化器内科医師)	講義	
5	肝臓②		(消化器内科医師)	講義	
6	胆道系疾患		(消化器内科医師)	講義	
7	膵臓		(消化器内科医師)	講義	
8	乳腺疾患①		(外科医師)	講義	
9	乳腺疾患②		(外科医師)	講義	
10	胆・肝・膵		(外科医師)	講義	
11	上部消化管		(外科医師)	講義	
12	腹部救急疾患		(外科医師)	講義	
13	急性腹症		(外科医師)	講義	
14	下部消化管①		(外科医師)	講義	
15	下部消化管②		(外科医師)	講義	
	試験				
評価 方法	筆記試験 100点				
参考 文献 資料	ナーシング グラフィカ EX3巻 消化器 ナーシング グラフィカ 8巻 栄養代謝機能障害				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学IV	医師 (脳神経外科) (実務経験有) 医師 (神経内科) (実務経験有) 医師 (産婦人科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	脳神経系、女性生殖器の機能と構造、および代表的な疾患の病態生理・治療、検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントするための基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	脳・神経系の構造と機能	脳・神経の異常でみられる症候	(神経内科医師)	講義	
2	脳血管疾患 (脳梗塞 TIAなど)		(神経内科医師)	講義	
3	感染性疾患 (髄膜炎 脳炎 プリオン病など)		(神経内科医師)	講義	
4	神経変性疾患・不随意運動症 (パーキンソン病・ALS・SCDなど)		(神経内科医師)	講義	
5	認知症		(神経内科医師)	講義	
6	末梢神経疾患・脱髄性疾患 (ニューロパチー・MSなど)		(神経内科医師)	講義	
7	筋疾患・てんかん		(神経内科医師)	講義	
8	脳出血・クモ膜下出血・水頭症		(脳外科医師)	講義	
9	頭部外傷 (頭蓋内圧亢進 意識障害)		(脳外科医師)	講義	
10	脳腫瘍		(脳外科医師)	講義	
11	婦人科良性疾患		(産婦人科医師)	講義	
12	婦人科悪性疾患		(産婦人科医師)	講義	
13	婦人科内分泌		(産婦人科医師)	講義	
14	婦人科感染症		(産婦人科医師)	講義	
15	勤労者看護 (月経について)			講義	
	試験				
評価 方法	筆記試験 100点				
参考 文献 資料	ナーシング グラフィカ EX 疾患と看護⑤脳・神経 (メディカ出版) ナーシング グラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 (メディカル出版)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学V	医師 (代謝内分泌内科) (実務経験有) 医師 (リウマチ科) (実務経験有) 医師 (泌尿器科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	①内分泌・代謝、腎・泌尿器系の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	内分泌① (内分泌とホルモン)		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
2	内分泌② (内分泌学各論)		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
3	内分泌③ (副腎・性腺)		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
4	糖尿病①		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
5	糖尿病②		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
6	糖尿病③		(糖尿病・内分泌内科医師)	講義	
7	腎不全と透析		(リウマチ科医師)	講義	
8	ネフローゼ・腎炎		(リウマチ科医師)	講義	
9	膠原病①		(リウマチ科医師)	講義	
10	腎臓と感染症		(リウマチ科医師)	講義	
11	膠原病②		(リウマチ科医師)	講義	
12	泌尿器疾患の構造と機能		(泌尿器科医師)	講義	
13	泌尿器系疾患の症状とその病態生理 (尿の異常・排尿障害)		(泌尿器科医師)	講義	
14	感染症・通過障害・がん		(泌尿器科医師)	講義	
15	CKDの腎代替療法 (勤労者)			講義	
	試験				
評価 方法	筆記試験 100点				
参考 文献 資料	ナーシング グラフィカ E X8巻 腎/泌尿器/内分泌・代謝 ナーシング グラフィカ E X4巻 血液/アレルギー/膠原病/感染症				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学VI	医師 (耳鼻咽喉科) (実務経験有) 医師 (眼科) (実務経験有) 医師 (歯科口腔外科) (実務経験有) 医師 (形成外科) (実務経験有) 非常勤講師 (元名大教授皮膚科) (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	耳鼻咽喉・口腔・皮膚・目の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	眼の解剖・検査について		(眼科医師)	講義	
2	白内障・緑内障		(眼科医師)	講義	
3	点眼薬		(眼科医師)	講義	
4	皮膚科学総論、構造と機能、外用療法、湿疹		(皮膚科医師)	講義	
5	アトピー皮膚炎、膠原病		(皮膚科医師)	講義	
6	中毒疹、薬疹、母斑、皮膚悪性腫瘍		(皮膚科医師)	講義	
7	細菌性・ウイルス性疾患、熱傷、STD		(皮膚科医師)	講義	
8	耳の病気		(耳鼻咽喉科医師)	講義	
9	鼻・咽喉頭の病気		(耳鼻咽喉科医師)	講義	
10	頭頸部腫瘍		(耳鼻咽喉科医師)	講義	
11	歯・口腔外科		(口腔外科医師)	講義	
12	口腔ケア		(口腔外科医師)	講義	
13	口腔外科総論		(口腔外科医師)	講義	
14	顔面外傷、先天性疾患、顎関節症、顎変形症		(口腔外科医師)	講義	
15	形成外科に関する治療		(形成外科医師)	講義	
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料	新体系看護学全書⑫ 皮膚/眼 (メヂカルフレンド社) " ⑬ 耳鼻咽喉科/歯・口腔 系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
微生物学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	生態に影響を及ぼす病原微生物について理解し、医療従事者としての感染予防と管理能力のための知識を習得する。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	微生物学総論				講義
2	消毒と滅菌				講義
3	化学療法				講義
4	自然免疫				講義
5	獲得免疫				講義
6	細菌による呼吸器感染症				講義
7	ウイルスによる呼吸器感染症				講義
8	消化器感染症 食中毒				講義
9	接触感染				講義
10	血液感染 日和見感染				講義
11	性感染症				講義
12	人獣共通感染症・創傷感染				講義
13	感染症総論				講義
14	感染症・関連法規則				講義
15	顕微鏡観察				演習
16	試験				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進③臨床微生物・医動物 (メディカ出版) 病気がみえる 免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
臨床栄養学	管理栄養士 (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習目標	生態栄養学を基礎に、臨床における栄養と食事と食事療法の実際を理解する。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	臨床栄養学の基礎知識	臨床栄養学の基礎知識 (栄養とは、栄養アセスメント)			講義
2	臨床栄養学の基礎知識	食品成分と栄養摂取基準、栄養計算			講義
3	日常生活と栄養	人生各期における健康生活と栄養			講義
4	療養生活と栄養	①経口摂取できない患者のための栄養管理法			講義
5	療養生活と栄養	②周術期・がんの食事療法			講義
6	療養生活と栄養	③糖尿病・循環器疾患の食事療法			講義
7	療養生活と栄養	④各病態の栄養管理			講義
8	試験				
評価方法	筆記試験・提出物・授業態度				
参考文献資料	1. 臨床栄養学 (MCメディカ出版) 2. はじめての食品成分表 (女子栄養大学出版部)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
薬理学	薬剤師 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	薬物治療の原理、薬理作用の基礎知識を学び、代表的な薬物の作用機序・特徴・人体への影響について理解する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	医薬品総論			講義	
2	薬物総論			講義	
3	周術期・救命救急時に使用する薬			講義	
4	感染症に使用する薬			講義	
5	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬			講義	
6	泌尿器・生殖器疾患に使用する薬			講義	
7	がんに使用する薬			講義	
8	血液・造血器疾患に使用する薬			講義	
9	呼吸器疾患に使用する薬			講義	
10	消化器疾患に使用する薬			講義	
11	末梢神経に作用する薬			講義	
12	脳・中枢神経疾患に使用する薬			講義	
13	循環器疾患に使用する薬			講義	
14	代謝・内分泌疾患に使用する薬			講義	
16	まとめ・試験				
評価 方法	筆記試験 (100点)				
参考 文献 資料	ナーシング グラフィカ 臨床薬理学				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
リハビリテーション医学	医師 (リハビリテーション科) (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習 目標	①リハビリテーションの概念を知り、リハビリテーションの領域と役割・ケアの方法に関する基礎的知識を習得する。 ②リハビリテーションの対象疾患を知り、障害に応じたリハビリテーションを受ける人へ看護を展開できる基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	脊髄損傷のADL			講義	
2	脊髄損傷の合併症、リハビリテーション各論			講義	
3	排泄 (排尿・排便) の管理			講義	
4	摂食嚥下のリハビリテーション			講義	
5	(急性期) 脳卒中のリハビリテーション			講義	
6	(回復期) 脳卒中のリハビリテーション			講義	
7	リハビリテーション総論			講義	
8	試験				
評価 方法	筆記試験 (100点)				
参考 文献 資料	QOLを高めるリハビリテーション看護 (第2版) 医歯薬出版				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
特殊治療学	医師 (麻酔科) (実務経験有) 医師 (放射線科) (実務経験有) 放射線技師 (実務経験有) 検査技師 (実務経験有) 臨床工学士 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	疾病の回復を促進するために必要な麻酔・救急法および放射線治療について学ぶ。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	麻酔について	(麻酔科)	講義		
2	酸素療法について	(麻酔科)	講義		
3	輸液と栄養管理	(麻酔科)	講義		
4	輸血療法、I C L S	(麻酔科)	講義		
5	画像診断	(放射線科)	講義		
6	画像診断	(放射線科)	講義		
7	M R I 検査について R I 検査について	(中央放射線部)	講義		
8	放射線治療について	(中央放射線部)	講義		
9	特殊治療学 放射線検査	(中央放射線部)	講義		
10	検査の基礎	(中央検査部)	講義		
11	生理検査 職業疾病	(中央検査部)	講義		
12	M E 機器について	(臨床工学部)	講義		
13	M E 機器について (透析療法)	(臨床工学部)	講義		
14	M E 機器について (人工呼吸器)	(臨床工学部)	講義		
15	放射線に関連した職業疾病				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料	臨床外科看護総論 臨床看護総論 見てできる臨床ケア図鑑 臨床検査ビジュアルナーシング				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
メンタルヘルスマネジメント	非常勤講師 (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習 目標	勤労者の職場におけるメンタルヘルスの現状と対策を学び、勤労者の看護に活用する能力を養う。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	働く人のメンタルヘルスの現状理解			講義	
2	ストレスの理解とストレスコーピング			講義	
3	メンタルヘルス支援者に必要な基本的構え			講義	
4	パーソナリティ診断を用いて支援者としての傾向を知る			講義・演習	
5	働く人のメンタルヘル스에役立つ心理ケア			講義・演習	
6	メンタル不調者の成長の支援 ～コーチング的かかわり～			講義	
7	メンタルヘルス支援者としての今後の歩みとコミットメント			講義	
8	試験				
評価 方法	筆記試験 (100点)				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
臨床判断過程	専任教員 (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習 目標	1) 臨床判断と臨床推論を説明できる。 2) 事例を通して、「気づき」を表現できる。 3) 「気づき」を分析的推論で解釈できる。 4) 解釈したことから、必要な援助を表現できる。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	臨床推論と臨床判断	1) 臨床判断とは 2) 臨床推論とは 3) 臨床判断過程		講義	
2	事例から考えよう①	1) おなかが痛い		演習・GW	
3				講義・演習	
4	事例から考えよう②	2) 足がしびれる		演習・GW	
5				講義・演習	
6	事例から考えよう③	3) 熱があつて息苦しい		演習・GW	
7				講義・演習	
8	まとめ	臨床判断過程における自己の課題			
評価 方法	事例から考えよう①～③ 25点×3 「症状ドリル」5点、「臨床判断ワークシート」5点、「病態まとめ」5点、 「気づき/リフレクションシート」10点 まとめ 25点×1				
参考 文献 資料	①ナーシンググラフィカ ②看護過程に沿った対症看護 (学研) ③看護がみえるvol4 看護過程の展開 (メディックメディア) ④看護がみえるvol3 フィジカルアセスメント (メディックメディア) ⑤病気がみえる 消化器 (メディックメディア) ⑥看護形態機能学 (日本看護協会出版会) ⑦日常生活行動からみるヘルスアセスメント (日本看護協会出版会)				
備考	病理学総論、病態生理学、微生物学、臨床栄養学、薬理学等の知識を活用し、症状や状態の機序や成り行きを論理的に解釈できる能力を養う。				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
医療学	医師 (整形外科) (実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習目標	医療と看護の原点を学び、現在医療をめぐる諸問題について理解する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	ワークショップとKJ法			講義・演習	
2	勤労者医療			講義・演習	
3	保険制度と現代医療			講義・演習	
4	救急医療と災害医療			講義・演習	
5	医療安全と感染対策			講義・演習	
6	医学史と今後の展望			講義・演習	
7	公衆衛生とプロフェッショナリズム			講義・演習	
8	試験				
評価方法	筆記試験 100点				
参考文献資料	看護学生のための医療概論 (医学書院)				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
公衆衛生学	非常勤講師 (実務経験有) 専任教員 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習目標	1) 公衆衛生の概要を知り、健康に影響する環境要因と保護活動の関係について考えることができる 2) 公衆衛生活動における看護師の役割について考えることができる				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	公衆衛生活動における看護師の健康教育	1. 公衆衛生看護とは 2. 公衆衛生看護が目指すもの 3. 保健師と助産師と看護師 4. 健康の指標と統計 5. ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ		講義	
2	予防的視点からの健康教育①	1. 身近な集団に対する健康教育① 1) 「健康教育調査計画書」作成 2) アンケート調査と作法		講義	
3	予防的視点から身近な人の健康を守る方法を考える②	1. 身近な集団に対する健康教育② 1) 健康教育の実施方法と評価		講義	
4	職場の中のヘルスプロモーション①	1. 産業保健の取り組み 2. 作業保健活動の実際		講義	
5				講義	
6	予防的視点から身近な人の健康を守る方法を考える④	1. 身近な集団に対する健康教育③ 1) 健康教育の実施		講義	
7	集団としての人々の健康を守る①	1. 公衆衛生の概念 2. 疾病予防と疫病 3. 公衆衛生と感染 4. 生活保全の取り組み 5. 行政が行う保健活動の概要		講義	
8				講義	
9	職場の中のヘルスプロモーション②	1. 産業保健活動の体験的理解 2. 産業保健活動の支援者として		講義	
10				講義	
11	予防的視点から身近な人の健康を守る方法を考える③	1. 身近な集団に対する健康教育④ 1) 健康教育の評価 2) 教育活動実践からの学びの共有		講義	
12	職場の中のヘルスプロモーション③	1. 産業保健活動のまとめと振り返り		講義	
13	みんなの健康を守る上で「食の安全を守る」意味について考える	名古屋市食品衛生研究所の見学		講義	
14				講義	
15	まとめ、試験				
評価方法	筆記試験 (90点) 課題 (10点)				
参考文献資料	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 (メディカ出版) 国民衛生の動向 2023/2024				
備考	健康に関する社会の動向を捉え、健康生活を送るための諸条件や環境要因、組織的な保健対策と保健行政を学ぶ				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
社会福祉	非常勤講師 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習目標	①生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者視点から理解する。 ②看護師としての実践に応用できるような社会福祉・社会保障の法制度・サービス等の知識を習得する。 ③ソーシャルワーカーの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する。 ④看護専門職として、保健・医療・福祉の他職種連携の実践ができるような力量を醸成する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	福祉制度と福祉政策			講義	
2	社会福祉の歴史			講義	
3	社会福祉の法制度、組織と実施体制			講義	
4	社会保障制度Ⅰ			講義	
5	社会保障制度Ⅱ			講義	
6	社会保障制度Ⅲ			講義	
7	生活保護制度と生活困窮者支援			講義	
8	高齢者福祉と介護保険制度Ⅰ			講義	
9	高齢者福祉と介護保険制度Ⅱ			講義	
10	障害者福祉			講義	
11	児童家庭福祉に関する法制度			講義	
12	ソーシャルワークの理論と方法			講義・演習	
13	地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築、多機関・多職種連携			講義・演習	
14	事例検討			講義・演習	
15	まとめ、試験				
評価方法	筆記試験 (100点)				
参考文献資料	増田雅暢・島田美喜・平野かよ子編 「ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障」メディカ出版2024 一般財団法人厚生労働統計協会編「国民の福祉と介護の動向」				
備考	社会福祉の概念や歴史的変遷、現在の社会福祉関係法制度・理念を学習するとともに、福祉サービスを必要とする人の福祉ニーズを当事者の視点から理解し支援に繋げる力を養う。また、看護専門職として、保健・医療・福祉など多職種連携を実践できるような社会福祉・社会保障の知識を習得する。				

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
関係法規	非常勤講師 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学習 目標	医療従事者を取り巻く法律を学び労災病院における看護の特徴を理解する				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	法の概念について			講義	
2	看護法について			講義	
3	医療法の目的について			講義	
4	医療施設について			講義	
5	医療関係資格法について①			講義	
6	医療関係資格法について②			講義	
7	労働法について①			講義	
8	労働法について②			講義	
9	薬事に関する法律 医療を支える法律			講義	
10	医療過誤について			講義	
11	労働法について①			講義	
12	労働法について②			講義	
13	災害に関する法律について			講義	
14	移植に関する法律について			講義	
15	まとめ、試験				
評価 方法	筆記試験 (100点)				
参考 文献 資料	系統看護学講座 専門基礎分野 関係法令 健康支援と社会保障制度④ (医学書院) 医療実務102法 最新医療関連法の完全知識 (医学通信社) 6月刊行予定				
備考					

授 業 科 目	講 師 名	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
勤 労 者 医 療	非常勤講師 (実務経験有) 看護師 (実務経験有) 専任教員 (実務経験有)	1	30	15	試験1回

学 習 目 標	1) 勤労者看護を实践するための基礎的知識について説明できる。 2) 勤労者看護を实践するための思考過程を説明できる。 3) 事例演習を通して勤労者の事例に応じた支援計画を立案できる。				
回 数	学 習 内 容	学 習 方 法			
1	労働衛生の現状	講義			
2	労働衛生の領域	講義			
3	労働衛生教育	講義			
4	健康教育について	講義・演習			
5	健康教育について	講義・演習			
6	健康教育について	講義・演習			
7	職業性疾病について	講義			
8	勤労者看護の实践プロセス	講義			
9	勤労者看護实践のための4つの視点	講義			
10	事例を用いた勤労者看護实践のための思考過程演習	講義・演習			
11	労災病院における就労と治療の両立支援	講義			
12	労災病院における就労と治療の両立支援	講義			
13	勤労者に対する健康教育	講義・演習			
14	産業の場における健康管理、疾病予防の取り組み	講義・演習			
15	試験				
評 価 方 法	筆記試験 (50点)、授業課題点 (50点)				
参 考 文 献 資 料	勤労者医療概論：独立行政法人労働者健康安全機構勤労者医療に関する看護プロジェクト編著 職場の健康がみえる (メディックメディア)				
備 考	勤労者医療の基礎を学び労災病院における看護の特徴を理解する。				